

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700035		
法人名	有限会社ドリー夢		
事業所名	グループホーム シャロームきこえ		
所在地	千葉県佐倉市染井野4-5-4		
自己評価作成日	令和元年10月15日	評価結果市町村受理日	令和元年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和元年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の一角に位置する当ホームは、徒歩圏内に商業施設、目の前には広大な公園という環境から、普段の生活の中でも、自然と地域の方々との交流が図れるという、恵まれた環境にあります。そんな当ホームで特に心掛けている点は、この恵まれた環境で入居者様が、心身共に健康で1日でも長く生活を送れるよう、入居時からのADLの維持を目標に、日々の暮らしにレクリエーション等を組み込み、メリハリのある生活を送れるような支援を行っている点です。
そして、何よりも、「どのような状況であっても、その人らしく生活を送って頂けるように支えていく」ことを、スタッフ一同が心掛けていけるように、月例ミーティング時に各種研修時間を設け、「その人らしさとは？」に向き合っている環境造りにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京成臼井駅から車で5分ほど、広大な七井戸公園が目の前にあり、ホームに居ながら四季を感じることが出来ます。また商業施設も近くにあり、訪問や買物、散歩に便利で自然環境に恵まれたホームです。介護付有料老人ホーム・デイサービス・ショートステイなどの施設が併設されており、給食、各種行事、研修、消防訓練、医療面など共同で実施することで効率的な運営が行われています。今年は事業所主催で秋季祭を行い、出店での買い物やゲーム(金魚釣り、射的、ヨーヨー)、地元の佐倉太鼓衆による演奏などがあり、ボーイスカウトや地域の人たちが多数参加するなど、地域に密着した活動も活発に行っています。職員は、チームワークで利用者個々の笑顔を引きだす介護を心がけ、散歩やリハビリ体操、レク活動、貼り絵の制作、1階と2階の合同のお茶会などを支援しています。また利用者には、年1回聞き取りアンケートを実施し、日々の暮らしの意向を、家族会で報告し運営に反映しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに基本理念と行動指針を掲示しスタッフの目に映るようにしている。また、日々のケアも、この理念や指針を踏まえたものになるよう、ミーティング等を通じ、スタッフに働きかけている。	基本理念(尊厳、自立、社会参加)と、「地域から得た有益は、地域に還元する」という運営理念を玄関に掲げ、職員は、ミーティングなどで確認・共有し日々のケアを通して実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩は日常生活の中で、地域の方々との交流が図れており、その他も地域ボランティアや近隣の保育園の慰問も受け入れている。今秋は公園で、事業所全体で地域の方々との交流を図る秋季祭も実施した。	七井戸公園の散歩時に地域の人たちとの触れあいを持っています。ボランティア(ハーブや歌や踊り、大正琴、手品など)を受け入れるほか、今年左記の秋季祭を実施し、地域との交流を積極的に図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に目立った実績はないが、ホーム見学希望者には、満床であっても積極的に応じており、その際に、認知症の人への支援方法等の相談には応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームや事業所での近況報告及び取り組みの報告を行うことで、参加された方々には事業所の活動内容や抱える課題を知って頂けている。また、そこで頂戴した意見については、事業所の運営の参考にさせて頂くよう心掛けている。	会議は、事業所合同で年6回開催し、市職員、地域包括支援センター、民生委員、他施設管理者、家族、職員などが出席し、現況や活動報告、地域との連携など活発に話し合い、参加者からの意見をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問を受け入れており、入居者様の様子をご覧頂き、直接、ヒアリングもして頂いている。また、運営上の疑問点や発生した事故については、速やかに市へ相談、報告を行っている。	介護相談員を毎月1名受け入れており、市の職員も出席するグループホーム連絡会では、管理者が出席し情報を得ています。運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの出席があり、アドバイスを貰うなど良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に検討会を行っている。ホームでは、年2回の内部研修を実施し、事前課題を渡し、それを基に研修を行う等、一方通行にならない内容の研修を行い、ケアに繋げている。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、マニュアルを作成して周知を図っています。玄関は安全のため日中も施錠していますが、リビングの出入り口は、センサーマットで対応し、職員が見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでの内部研修を実施。事前課題に取り組んでもらい、それを基に研修を行っており、一方通行にならない内容の研修を行い、ケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様1名、該当者あり。 成年後見人に入居者様の生活の様子や支援について報告、相談を行い、連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に契約書等の見直しを行い、追加が必要な内容に関しては、管理室より説明を記載した手紙と同意書を家族へ送付している。また、疑問点については十分な説明を行うように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、家族からの意見、要望を伺う機会を設けている。また、家族会開催に併せて入居者様対象にアンケートを実施し、要望の把握と反映に活かすよう心掛けている。	利用者については、毎月介護相談員が来訪し話を聴くほか、年1回アンケートを実施して意向を聴いています。家族については、来訪時や家族会、運営推進会議などで、直接意見・要望を聴き運営に反映しています。また外部評価時の家族アンケートも参考にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年頭のミーティング時に、各ユニット毎の課題と目標を代表、室長、管理者、スタッフで話し合い設定している。また、内部研修時では、ケアの疑問点についてスタッフから聞き取りを行うことで、業務に反映するよう心掛けている。	管理者は、日頃の対応の中や、個人面談、ミーティングなどで意見・要望を把握し運営に反映しています。毎年運営法人として、アンケート(ユニットの課題と目標)を実施し職員と話し合いの場をもつなど、意見反映の場は多くあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新たに「キャリアアップシート」の導入を検討しており、これにより、全スタッフが個々の能力把握と次に目指す課題の把握が出来ることで、仕事へのやりがいや向上心が持てるような環境を更に整えていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所規程の必須項目の研修実施の他、任意項目についても内部研修を実施している。また、外部研修、講習も希望者は受講させている。今年は、希望者は外部の「ユマニチュード入門研修」を受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH連絡会に管理者、計画作成担当者は出席し、情報交換や勉強会を行っている。また、連絡会で得た情報や知識は月例ミーティングを通じ、全スタッフが共有できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から生活背景を聞き取り、また、本人からも、自分、今後、どのように生活を送っていきたいのかを話して頂き、くみ取るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が入居者やホームに対して、何を望み、何を不安に思っているのかを、面接の段階で聞き取り、問題点は担当者会議を開催し、支援方法等を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居に対しては、今までの情報収集に努めている。また、暫定的の1ヶ月のみのケアプランを立て、その後の気付きを反映させたケアプランを再度、立てている。既存の入居者も状態の変化に応じ、訪問マッサージ等のサービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ対入居者として捉えないように、「自分だったら？」や「どうしたいのか？」という視点を持つよう、ミーティングや研修を介してスタッフには伝えている。また、接遇の研修等も行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月例のお便りや、季節毎に与具付きのお便りを送ることで、ホームでの様子を家族に伝えている。また、家族も来訪時に入居者の様子をスタッフから聞いたり、要望を伝えたりしている。尚、施設内のイベントには家族を招待して共に過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会にも快く応じており、入居者の中には、入居前からの友人や知人が訪ねてきてくれる方も居る。また、入居前から利用している美容院等を、家族の協力のもと利用している人も居る。	夕食から就寝の時間までは落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう面会はおおむね午後5時ごろまでとされています。友人の面会についてはあらかじめ家族の了解を得ています。家族と食事に出かけたり美容院に行くなど馴染みの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活から見られる、各入居者の言動、性格、また、入居者同士の関係性も考慮し、その都度、リビングのテーブル席の配席等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者本人や家族からの相談があれば、対応していくように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴に努めるようにし、また、普段の言動、様子も参考に本人の意図するところを拾うようにしている。また、ミーティング等で多方面からの意見交換を行い、本人本位での検討に努めている。	落ち着かない時には排泄ではないか、どんなことに興味を示すかなど、日ごろから利用者の様子を観察し、職員間で情報を交換し話し合っています。これをもとに利用者の思いに沿った支援ができるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の状況等を家族、及び関係者から聞き取り、ケアに反映するように努めている。また、環境の変化を少しでも軽減する為、入居の際には、馴染みの物を持参して頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況に応じたレクや作業等を提供するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、家族、本人から希望、意見を聞き取り、また、現状について、スタッフから意見を聞き取るようにしている。その上で、ミーティングや担当者会議を開催し、介護計画に反映させるように努めている。	在宅時のケアマネージャー、利用していたサービス事業所、医療機関などからの情報と本人・家族からの意向の聞き取りをもとに暫定の介護計画を立てます。入居後1か月の様子を見て担当者会議を行い本計画を立てています。半年ごとにモニタリングを行い、変化があれば計画の見直しを行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入。特記事項は、スタッフ間の連絡ノートに記入。その上で、毎日の申し送りと、月例のミーティング等で情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜勤者からの日勤者への申し送り、日勤者からの夜勤者への申し送り等は密に行うことで、入居者のその時々状況に応じたケアに繋げている。必要に応じては介護職以外の医療、看護職等に協力を依頼するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日課にしている公園への散歩で心身機能の維持や社会交流を図る他、外部ボランティアや近隣保育園の慰問受け入れ、近隣の商業施設への外出等を行いホーム内だけの生活にならないよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を含め、医療の選択は、家族に委ねている。	入居時には本人・家族が主治医の選択をしています。現在は月に2回全員がホームの提携医の訪問診療を受けています。また訪問看護師、および、併設事業所と兼務の看護職員と連携を取り、利用者の健康を管理しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子の変化については、連絡ノート、ケース記録に記入し看護職との連携に活かしている。また、入居者の健康状態について管理者が専用のシートに記入し、看護師が確認し指示を出している。尚、月例ミーティングは看護職員も出席している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には全ての情報を病院側に提出している。また、入院時の様子については、入院先に面会に行き様子を見たり、病院側に連絡し状態の把握に努めている。退院時にも、同様に連携を図るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化の場合の指針について」を説明しているが、状況が変化した場合は、担当者会議等を開き、その都度、今後についての話し合いを行っている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を本人・家族に示して同意を得ています。重度化した場合には医師・看護師・家族を交えて話し合いを行い最善の方法を探ります。ホームは生活の場という考えから重度化後は病院や特養などへの移行が多くなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生時のマニュアルは各ユニットに用意してある。また、感染症等、ホームで起こり得る疾病の初期対応の確認は定期的にミーティング等で確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・災害・避難訓練は近隣の消防署の協力のもと、実施している。また、事業所共通の災害対応マニュアル、連絡網も用意してある。	消防署立会のもと、系列施設と合同で消防・災害・避難訓練(夜間想定を含む)を年2回実施しています。災害対応マニュアルや連絡網は完備されており、系列施設との連携や協力体制も万全を期しています。受水槽には4トンの水を常時準備し、備蓄も3日分に増やしました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修をはじめ各研修を通じて、入居者様本位のケアや関わりについて、話し合っている。また、普段のケアにおいても、その方が持つコンプレックス等に配慮した対応を心掛けている。	個人ファイルはリビングの棚に保管し管理しています。職員は内部・外部の研修に参加し、利用者の尊厳を守る支援についての理解を深めています。トイレや浴室のドアを閉めるなど羞恥心への配慮を徹底するよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が普段から、自分の思いや希望を気軽に言える雰囲気作りを意識している。また、うまく自己決定を出来ないような場合は、その方の表情をはじめ、普段の生活の様子等を参考に、限りなく、その方の意志に近づけるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まってはいるが、入居者の意向も汲み取り、強制はせず、可能な範囲で、本人の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアスタイル等の希望がある方には申し出て頂き、それを維持できるように努めている。また、普段の洋服についても、自分で選べる方は選んで頂き、そうでない方にも、選べる範囲で好みの物を選択してもらうように心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の現在の能力で出来る内容を鑑みて、簡単な野菜の下処理を一緒に行ったり、簡単なおやつ作りを一緒にしている。	もやしのひげ取りや食器の片付けなど利用者のできる事を行っています。リビングのボードに当日のメニューが書かれており、利用者が読み上げています。おやつホットケーキやゼリーをみんなで作るのも楽しみの一つです。外食の日には寿司やファミリーレストランなどで好みのものを注文しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下、口腔内の状態に合わせて食事形態を配慮している。尚、食事量・水分量はケース記録に記入し把握できるようにしている。必要であれば、家族の協力のもと、本人の好みの嗜好品等を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように声掛け、必要に応じて、誘導や介助も行っている。また、口腔内のトラブルが発生した場合は、家族の了承を得て、訪問歯科を受診してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の大半がリハビリパンツ+パットという状況だが、トイレでの排泄を意識してもらうべく、スタッフは個々の排泄パターンを把握するように努めている。共通の記録用紙に記入し、トイレ誘導に活かしている。	排泄の自立度は高く、日中は全員トイレで排泄できるよう支援しています。排泄チェック表で個々の排泄リズムを把握し、適切にトイレ誘導していることがわかります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	三度の食事以外でも水分を摂取する時間を設け、しっかり摂取して頂くように促している。また、排便状況を把握できるように、排便管理シートを活用し、必要ならば、看護師の指示を仰ぐ等、便秘防止に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はユニット毎で決まってはいるが、状況に応じてユニットの枠に捕らわれず、入居者の意向を優先させるよう心掛けている。また、個々の入浴時の習慣、事情等を記載した表を活用し、ケアに活かしている。	週3日の割合でおもに午前中に入浴しています。「さっき入ったよ」とか「風呂は億劫で入りたくないよ」などスムーズに入浴できない場合でも声かけの工夫で全員入浴できています。またゆず湯やしょうぶ湯で季節を感じる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は入居者にまかせている。また、就寝時の居室の照明等も入居者の意向に合わせて、少しでも快適に眠れるように配慮している。夜間以外でも、個々の習慣や体調に応じて、休息できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに薬剤情報を挟み、全員が確認できるようにしている。また、薬情については、定期的に見直し現状に即した支援ができるように努めている。尚、薬の変更があったさいには、連絡ノートにて目的や、その後の様子等の情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では、個々の趣向や特技に配慮し、手伝いや作業をスタッフと一緒にしたり、レクリエーションをたのしまれている。また、月1回のボランティア観賞会、季節毎行事、イベントを取り入れ、ホームでの暮らしに張りを持たせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に公園へ散歩に出かけ、ホーム以外の人達との交流が持てるように努めている。また、入居者の中には、家族の協力のもと、別の施設で暮らすご主人に会いに行ったり、暮らしていた自宅へ出かける人も居る。	散歩は職員と利用者がじっくり話せる時間として大切にしています。ホームの近くの広い公園は絶好の散歩コースになっています。またチューリップや紫陽花、コスモスなどの季節の花を見物に行ったり、年に2回フロアーごとに外食に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の入居者の認知症の症状から、金銭の管理、及び、使用が困難な為、必要な物品については、家族に連絡して購入してきてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や必要があれば、家族の了承のもと、入居者自らが連絡を取れるように支援するように検討する。また、入居者の中には、連絡を取れるように携帯電話を持っている人も居る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共用スペースの照明や窓、カーテンの開閉は入居者も自由にできるように配慮している。また、玄関ホールやリビングは、季節にちなんだ飾り付けや、ホームでの写真を掲示し、自分たちの居場所と認識できるよう配慮している。	日中ほとんどの利用者が過ごす、リビング兼食堂は明るく、目の前の公園から四季が感じられ利用者の癒しになっています。厨房からの匂いや音で生活感があります。壁には、利用者が季節毎に作成した作品(貼り絵など)が飾られています。管理者は、換気や床暖房などに気をつけ利用者が穏やかに過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の配席は、入居者同士の関係性に配慮している。自由に過ごす時間については、入居者の好きに任せているが、結果、暗黙の了解で個々の定位置が決まっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた、馴染みのある家具や好きな物を用意してもらい、少しでも落ち着いて過ごせるように配慮している。また、ホームで生活を送る中で撮った写真や、作った作品を飾る等、ここが、自分の部屋だと認識できるように工夫している。	居室は、適度な広さもあり、利用者は馴染みの、椅子、タンス、家族の写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、居心地良く過ごしています。壁には、職員からもらったお祝いや作品が飾られ、ホームの気遣いを感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字が読め、その意味をある程度は理解できる入居者が多いので、必要な個所には、案内や説明を貼っている。		